

編集・発行 大学美術教育学会
理 事 長 新聞伸也（滋賀大学）
編集担当 吉川暢子（香川大学）・高林未央（総務局事務）
広 報 室 E-mail: daibibumon@uaesj.com（総務局専用）
事 務 支 局 〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る西大路町
146 番地 中西印刷株式会社 学会部内
TEL: 075-415-3661/FAX: 075-415-3662
E-mail: uaesj@nacos.com

大学美術教育学会のこれまでとこれから

大学美術教育学会理事長 新聞 伸也（滋賀大学）



この度、大学美術教育学会理事長に就任しました滋賀大学の新聞伸也です。よろしくお願い致します。思えば、本学会の運営に関わって10年以上の年月が経過しました。その間印象に残っていることは、日本学術会議の学術協力団体加盟（2010年4月）、学会ホームページ開設（芳賀正之先生が尽力）、学会誌リニューアルと学会事務の民間委託などがあげられます。特に、個人的には学会誌編集委員長として、学会会誌名を「美術教育研究」（46号 2014年3月発行）」と新たに命名するとともに、紙面の全面リニューアル、J-stage掲載、査読システムから発行までを民間業者（中西印刷）に委託したことです。当時、大会開催や会計、学会誌編集、会員管理など大学教員や個人頼みの実務が限界に來ている時期でした。多くの課題がありましたが、理事長はじめ総務理事の方々の尽力で課題を乗り越え、運営改革したことが思い出されます。しかし、このような学会運営の改革や方法の変更は、くり返しますが、一個人の力でできる訳ではありません。現状の課題を把握し、それを何とか克服したいというベクトルが共有された成果でした。

さて、今日、あらゆる組織や団体で従来のシステムや枠組みの維持が困難になってきました。その要因は単純に言えば少子高齢化による人口減少です。システムを維持する人的保証がなければ、

予算があっても機能しません。大学においても40年前に比べて18歳人口、つまり学生数が4割も減った今日、教員養成においても様々な既得権を見直すことが迫られています。特に影響が大きかったことは大学院教育学研究科の消滅です。教職大学院に移行したことにより、教科専門と教科教育の教員定員確保は困難となりました。それに連動して、大学・学部の美術教員の専任採用数も減ってきたわけです。かつては、各大学に丸投げした大会開催も専任教員の激減により、美術教育講座の人員に頼る開催は不可能となりつつあります。さらに、コロナ禍において学会大会の開催方法も対面がかなわず、オンライン形式による研究発表やシンポジウム開催が主流となり、飲食を伴う懇親会も不可で情報交換の場も持てません。

このような激変期の中、美術教育関係学会の振興と連携強化を意図した「造形芸術教育協議会」（発足2009年9月）において、将来の三学会統合を見据えた本格的な議論が活性化してきました。本学会においても、課題を浮上させつつ、どのようなかたちで将来に向かうかを真剣に議論しなければなりません。そのためにも「大学美術教育学会」と「全国美術部門」と表裏一体で運営してきた在り方を見直し、必要あれば分離する方向を探らなければならないと考えています。

学会理事長退任のご挨拶

大学美術教育学会理事長 八重樫良二(北海道教育大学)



令和2年度より2年間、学会理事長を務めさせていただいた八重樫です。私の就任時には新型コロナウイルスによる世界的な流行感染が起こり、緒会議を含め学会の全国大会を対面して開催することが出来ませんでした。そのため第59回宇都宮大会と第60回山形大会では、インターネットを利用したライブ型とオンデマンド型、両方の形を伴った配信による開催方式となりました。

このような新たな方法で全国大会を無事に開催できたのは、開催当番大学を引き受けて下さった宇都宮大学と山形大学の先生方のご理解とご協力の賜物です。従前と全く違う開催方式でありながら、これまでの大会と同様に研究発表の場を設けた上でそれぞれ特色ある講演会とシンポジウムを企画、開催していただきました。

こうした全国大会の準備と実施にあたっては、本学会では総務局委員と大会運営委員がその任を担っています。中でも私と同じ任期中に総務局長を務めていただいた静岡大学の芳賀先生には数多くの仕事を果たしていただきました。特に初めての遠隔方式での開催となった宇都宮大会の際には、お一人で何役もの実務対応をされていた姿が今も記憶に残っています。

全国大会の開催にとどまらず、平素より本学会の運営を支えて下さっているのは総務局長だけに留まりません。総務局委員はじめ各委員会委員を務めていただいている諸先生方のご尽力あるからこそ、そのありがたさを実感するばかりです。

私は理事長就任時のご挨拶文の中で、「どの学会でも運営に多くの労力が割かれることは言うまでもありません。…それでもなお学会運営に伴う労力は大きく、世代交代を頼りとした方策だけでは継承が困難となることを思わずにはいられませ

ん。」と記しました。この課題を巡っては同文で触れているよう日本美術教育学会と美術科教育学会、そして本学会との連携組織である造形芸術教育協議会においても検討が続けられています。会員の皆様には是非、こうした学会運営について他人事と思わず関心を向けていただけますよう、重ねてお願いします。

コロナ禍の下では学会総会も対面で開かれることはなく、私は総会会場での参加者に直接お会いすることなく任期を終えます。そのこともあってか、ネット上での画面を通したコミュニケーションの特質を考えずにはいられません。オンとオフで切り替えられる画面はまさにデジタルを実感させるものであり、ともするとアナログ的な感覚が薄れてしまうのではないかと怖れます。

学会発表は関わりある事、学会運営は関わり無い事とデジタルに割り切れるものではなく、どの会員も発表者になりうるのであり運営者にもなりえます。実際、論文審査をはじめとする種々の学会活動は、ここに記したよう会員相互の協働によってなされています。

研究に関する情報交換はもちろんですが、それ以外の情報のやり取りのためにも雑多な交流を可能とするアナログ的な接点、会員同士が直に顔合わせする機会があることが肝要と思っています。遠方に在っても参加できる利便性と共に、互いに膝を突き合わせての議論、懇親する機会も必要であり、学会の活力を産むことにつながるように思っています。この間の互いの経験が今後の学会運営にも生かされるよう願っています。

末尾ながらこの間の会員の皆様からのご支援とご協力に感謝を申し上げ、本学会の益々の発展を祈念して退任のご挨拶とさせていただきます。

令和3(2021) 年度 大学美術教育学会 役員・各種委員会委員一覧

■理事長 八重樫良二* (北海道教育大学)

■副理事長 新井 浩* (福島大学)

秋山敏行* (愛媛大学)

■顧問 佐藤哲夫* (新潟大学)

■総務局委員

総務局長 芳賀正之* (静岡大学)

副総務局長 村田 透* (滋賀大学)

松尾大介* (上越教育大学)

総務局員 前芝武史 (兵庫教育大学)

福井一真 (愛媛大学)

吉川暢子 (香川大学)

藤井康子 (大分大学)

手塚千尋 (明治学院大学)

総務局事務 高林未央

■大会運営委員

小林俊介 (山形大学)

幸 秀樹 (宮崎大学)

■監 事

新野貴則 (山梨大学)

原口健一 (横浜国立大学)

■地区全国委員

I 〔北海道〕

福江良純 (北海道教育大学釧路校)

佐々木 けいし (北海道教育大学岩見沢校)

〔東北〕

平野英史 (岩手大学)

虎尾 裕 (宮城教育大学)

II 〔関東〕

神野真吾 (千葉大学)

向野康江 (茨城大学)

III 〔北 陸〕

松尾大介 (上越教育大学)

岡田匡史 (信州大学)

〔東 海〕

関 俊一 (三重大学)

杉林英彦 (愛知教育大学)

IV 〔近 畿〕

藤田昌宏 (滋賀大学)

永沼理善 (和歌山大学)

〔四 国〕

吉川暢子 (香川大学)

福井一真 (愛媛大学)

V 〔中 国〕

山本和史 (岡山大学)

藤田英樹 (島根大学)

〔九 州〕

宮田洋平 (福岡教育大学)

栗山裕至 (佐賀大学)

■私立大学全国理事

鳥越亜矢 (中国学園短期大学)

浅野卓司 (桜花学園大学)

■学会誌委員会

委員長 秋山敏行 (愛媛大学)

副委員長 山田芳明 (鳴門教育大学)

副委員長 小林俊介 (山形大学)

委員 〔R2-3 年度委員 6 名〕

吉川暢子 (香川大学)

渡邊美香 (大阪教育大学)

栗原 慶 (鳴門教育大学)

小池研二 (横浜国立大学)

有田洋子 (島根大学)

八重樫良二 (北海道教育大学)

委員 〔R3-4 年度委員 6 名〕

藤田英樹 (島根大学)

手塚千尋 (明治学院大学)

佐原 理 (徳島大学)

蜂谷昌之 (広島大学)

高橋智子 (静岡大学)

武田信吾 (関西学院大学)

*印：運営委員

■学会誌委員会

1. 『美術教育学研究』第54号について

本年度の投稿本数は77編（昨年度66編）、事前登録数は106件（昨年度は99件）であった。

11月7日にオンライン（Zoom）で第2回学会誌委員会を開催した。会議において、第1回査読結果について確認するとともに、各委員が行った追加査読結果について報告があり、全員で審議を行い、掲載・条件付き掲載・不掲載を決定した。

■最終結果：掲載50編（掲載率64.9%）※昨年度42編・掲載率63.6%

■内訳：掲載6編、条件付き掲載44編（第1回査読条件付き掲載33編・追加査読による条件付き掲載13編）、不掲載27編（第1回査読不掲載2編・追加査読による不掲載23編・修正論文の提出辞退1編・修正論文の提出締切超過1編）

2. 学会誌委員会等の開催について

(1) 中西印刷との打合せ（令和3年5月31日、オンライン）

(2) 第1回学会誌委員会（令和3年9月24日、オンライン）

・学会誌委員顔合わせ、運営日程等確認

(3) 第1回幹事会（令和3年9月17日・20日・21日、オンライン）、第2回幹事会（令和3年10月30日・11月1日、オンライン）

(4) 第2回学会誌委員会（令和3年11月7日、オンライン）第1回査読結果の確認、掲載・条件付き掲載・不掲載の決定

(5) その他

・不定時幹事会（オンライン、メール等）

※ 新型コロナウイルスの全国的な感染状況を鑑みつつ学会誌委員会等の対面による開催の機会を探したが、昨年度と同様に全ての会議や打合せをオンラインにて開催することになった。

3. 今年度総括と今後の検討事項

(1) 編集係（中西印刷）の業務進行が極めてスムーズであったため、学会誌委員会の進行もスムーズ

にでき、大変助かっている。

(2) 本年度の査読者数は110名と昨年度とほぼ同数となっているが、査読者の専門領域の多様性の確保が困難であるという以前からの課題に加え、多忙を理由に承諾しないケースや1編のみの承諾といったケースも増えてきている一方で、投稿数も増えてきているため、双方の専門性を考慮した割り当てが困難になってきている。

(3) 投稿論文の註（引用）の中に他学会にて査読中（掲載決定前）のものが含まれた状態で提出されているものがあるので注意喚起が必要である。

(4) 二重投稿が疑わしいものがあり、同時期に複数学会への投稿をする場合にはきちんと棲み分けたものになるよう注意喚起が必要である。なお二重投稿については美術科教育学会、日本美術教育学会等の諸団体と連携し、随時確認に努めている。

(5) 54号の掲載論文は53号よりも8編多い結果となったが掲載率では横ばい状態といえる。

4. その他

例年同様、学会誌刊行のプロセスについては、中西印刷と協議を行うことで安定しており、本年度も事前登録や投稿締切等に関するトラブルはほぼなかった。一方で、投稿された原稿に規定のフォーマットから文字の大きさや字数・行数が変更されていたり、図表の取り扱いが例示とは異なっていたりする（図表が極端に縮小されているなど）ために、印刷所のレイアウトの段階で頁数がオーバーするといった事例が本年度も複数件あった。編集委員会として中西印刷と相談し、投稿規定や投稿者への案内等がより分かりやすいものになるよう改善を進めるが、投稿者には投稿規定や案内文等を熟読していただき、それに沿った原稿の作成や校正をお願いしたい。なお、昨年度に引き続き本年度もオンラインでの学会誌委員会の運営となったが、学会誌委員をはじめ中西印刷等、関係各位の協力により無事編集を終えることができ、あらためて感謝申し上げたい。

令和3（2021）年度 理事会報告

令和3（2021）年度 第1回 大学美術教育 学会理事会 議事録

日時：令和3年9月24日（金）

15:00～16:00

場所：山形県生涯学習センター 遊学館、オンライン会議（zoom）

出席者：八重樫・代表・理事長、新関・副代表、
新井・副理事長、秋山・副理事長、佐藤・
顧問、芳賀・総務局長、村田・副総務局長、
松尾・副総務局長、総務局員（福井、吉川、
藤井、手塚、高林）、大会運営委員（小林、
幸）、新野・監事、地区全国委員（福江、
佐々木、平野、虎尾、神野、向野、岡田、
関、杉林、藤田昌宏、永沼、山本、藤田
英樹、宮田、栗山）、西村・学校美術教育
支援委員会委員長、私立大学全国理事
（鳥越、浅野）

進行：芳賀

書記：松尾

I あいさつ

- ・開会の辞：議事に先立ち、新井・副理事より開会の辞がなされた。
- ・理事長挨拶：議事に先立ち、八重樫・理事長より挨拶がなされた。
- ・開催大学挨拶：議事に先立ち、降旗・山形大会運営委員より挨拶がなされた。

II 報告事項

1. 令和3年度 会員登録状況

- ・芳賀・総務局長より令和3年度 学会会員登録状況（726名）の報告がなされた。

2. 令和3年度 役員・各種委員会委員

- ・芳賀・総務局長より資料「令和3年度 大学美術

教育学会 役員・各種委員会委員一覧」に基づき、報告がなされた。

3. 令和2年度 事業報告

- ・芳賀・総務局長より資料「令和2年度 大学美術教育学会 事業報告」に基づき、報告がなされた。

4. 令和3年度 学会員名簿

- ・村田・副総務局長より、学会員名簿について説明がなされた。各会員に会員登録情報の変更がある場合、情報を更新するよう依頼がなされた。

5. 学会各種委員会

（1）学会誌委員会

- ・秋山・学会誌委員会委員長より、今年度の学会誌に77編の論文が投稿されている旨の報告がなされた。

6. 令和3年度山形大会の日程及び内容【共通】

- ・小林・大会運営委員より、山形大会の日程及び内容について説明がなされた。新関・部門副代表より、部門協議会の内容等について説明がなされた。

III 協議事項

1. 令和4-5年度 学会理事長・副理事長（案）

- ・八重樫・理事長により、資料「大学美術教育学会 令和4-5年度 理事長、副理事長（案）」に基づき提案（次期理事長：新関伸也、副理事長：松島さくら子）がなされ、承認された。

2. 令和2年度決算、令和3年度 事業計画（案）・予算（案）

（1）令和2年度 決算

- ・芳賀・総務局長より、資料「令和2年度 大学美術教育学会 決算」に基づき説明がなされ、承

認された。

(2) 令和2年度 監査

- ・新野・監事より、資料「令和2年度 大学美術教育学会 監査報告書」に基づき説明がなされ、承認された。

(3) 令和3年度事業計画（案）

- ・芳賀・総務局長より、資料「令和3年度 学美術教育学会 事業計画」に基づき説明がなされ、承認された。

(4) 令和3年度予算（案）

- ・芳賀・総務局長より、資料「令和3年度 大学美術教育学会 予算案」に基づき説明がなされ、承認された。

議会が美術科教育学会の幹事で実施されることが報告された。また、八重樫・理事長より、資料「第10回 造形芸術教育協議会・議事録(案)」に基づき説明がなされた。本会議で報告した資料の内容について、慎重に扱うよう依頼がなされた。

IV あいさつ

- ・閉会の辞：秋山・副理事長より閉会の挨拶がなされた。

3. 次年度以降の全国大会開催大学【共通】

- ・芳賀・総務局長より、資料「2008年からの（V期）の全国大会開催の記録と予定」に基づき次年度以降の全国大会開催大学について説明がなされた。また幸・大会運営委員より、次年度の全国大会の開催方法について、今後、オンラインまたは現地開催を検討し、3月の理事会で承認を得る旨の予定が報告された。

4. 次年度以降の総務局の運営体制【共通】

- ・芳賀・総務局長より、資料「令和4年度 全国美術部門・大学美術教育学会に関わる役割分担（案）」に基づき説明がなされた。

5. 令和3年度 学会会報

- ・芳賀・総務局長より、時期も年によって異なり、年度末の3月に発行していた会報について、代表・理事長の挨拶等を適切な時期に掲載するため、6月に発行する旨の報告がなされた。

6. 造形芸術教育協議会（3学会連携）について

- ・芳賀・総務局長より、今年度の造形芸術教育協

令和3（2021）年度 第2回 大学美術教育 学会理事会 議事録

メール、及びオンライン（令和4年3月31日（金）
14：00～14：30）会議

オンライン出席者：

八重樫・代表・理事長、新関・副代表、新井・副
理事長、秋山・副理事長、佐藤・顧問、芳賀・総
務局長、村田・副総務局長、松尾・副総務局長、
総務局員（福井、藤井、高林、前芝）、幸・大会
運営委員、地区全国委員（平野、虎尾、岡田、杉
林、藤田、栗山）、西村・学校美術教育支援委員
会委員長、私立大学全国理事（浅野）

進行：芳賀

書記：松尾

I あいさつ

- ・開会の辞：議事に先立ち、新井・副理事より開
会の辞がなされた。
- ・理事長挨拶：議事に先立ち、八重樫・理事長よ
り挨拶がなされた。
- ・オンライン会議出席者自己紹介：議事に先立ち、
オンライン参加者より自己紹介がなされた。

II 報告事項

1. 令和3年度 第2回日本教育大学協会全国美 術部門役員会・大学美術教育学会理事会（メール 会議）

- ・芳賀・総務局長より事前送信された資料（メー
ル会議）の内容について、報告がなされた。

2. 第60回大学美術教育学会 宮崎大会について

- ・幸・大会運営委員より、9月17日（土）、18日（日）
に開催予定の宮崎大会について、コロナウィル
ス感染防止に対応した オンラインによる開催

に向け検討している旨の報告がなされた。オン
ラインで開催するにあたり、参加費の有料また
は無料やリアルタイムまたはオンデマンドの実
施方法等の検討事項が提示された。

3. 委員会報告

- ・秋山・学会誌委員会委員長より、学会誌54号
の状況（投稿数：77編、掲載数：50編、掲載
率64.9%）の報告があった。その他、投稿論文
に関して対応が必要な案件（論文の註に査読中
の論文があった、二重投稿対策として三学会で
情報共有をした）の報告があった。令和3、4
年度小林副委員長が今年度で辞任し、西村徳行
会員に交代した旨の報告がなされた。

4. その他

なし

III 協議事項

なし

IV その他

V あいさつ

- ・閉会の辞：秋山・副理事長より閉会の辞がなさ
れた。

令和3(2021)年度 総会報告

令和3(2021)年度 大学美術教育学会総会議事録

日時：令和3年9月25日（土）

14：20～14：50

場所：山形県生涯学習センター「遊学館」/ オンライン開催

進行：小林 俊介（山形大学運営委員）

書記：村田透（副総務局長）

1. 挨拶

- ・八重樫・理事長より挨拶がなされた。

2. 議長団選出 総務局

- ・議長（松尾・副総務局長）が選出された。

3. 議 事

【報告事項】

(1) 令和3年度 役員・各種委員等

- ・八重樫・理事長より、大会冊子の「令和3年度 大学美術教育学会 役員・各種委員会委員一覧」に基づき、報告がなされた。

(2) 令和2年度 事業

- ・芳賀・総務局長より、大会冊子の「令和2年度 大学美術教育学会 事業報告」に基づき、報告がなされた。

(3) 令和2年度 決算

- ・芳賀・総務局長より、別紙資料「令和2年度 大学美術教育学会 決算」に基づき、報告がなされた。

(4) 令和2年度 監査

- ・新野・監事より、別紙資料「令和2年度 大学美術教育学会 監査報告書」に基づき、報告がなされた。

(5) 学会誌委員会

- ・秋山・学会誌委員会委員長より、学会誌「美術教育学研究」第54号の投稿数（77編）について報告がなされた。

て報告がなされた。

(6) 令和4年度 開催大学

- ・芳賀・総務局長（幸・大会運営委員代理）より、令和4年度開催大学（宮崎大学）について報告がなされた。

(7) その他

- ・西村・学校美術教育支援委員会委員長より、令和2年度の全造連・千葉大会の中止、令和3年度の全造連・北海道大会のオンライン開催予定（10月、大学部会は中止）、全国の中学校美術教員配置の実態調査の経過報告（専任教員配置53%、非専任教員配置47%）がなされた。

【協議事項】

(1) 令和4-5年度 理事長・副理事長（案）

- ・八重樫・理事長より、別紙資料「大学美術教育学会 令和4-5年度 理事長、副理事長（案）」に基づき提案（次期理事長：新関伸也、次期副理事長：松島さくら子、秋山敏行）がなされ、承認された。

(2) 令和3年度 事業計画（案）

- ・芳賀・総務局長より、大会冊子の「令和3年度 大学美術教育学会 事業計画」に基づき説明がなされ、承認された。

(3) 令和3年度 予算（案）

- ・芳賀・総務局長より、別紙資料「令和3年度 大学美術教育学会 予算案」に基づき説明がなされ、承認された。

(4) その他

- ・特に無し。

4. 議長団解任

5. 閉会の辞

新井・副理事長より閉会の辞がなされた。

令和2（2020）年度 大学美術教育学会 決算

■収入の部

(円)

	費 目	予算額	決算額	増 減	備 考
年会費	会費	5,812,000	4,883,848	-928,152	8,000 × 636 名 4,000 × 1 機関
	未納分	0	408,000	408,000	
掲載負担金	学会誌掲載負担金	1,500,000	1,230,000	-270,000	30,000 × 41 件
繰越金	繰越金	5,974,020	5,974,020	0	
	合 計	13,286,020	12,495,868	-790,152	

■支出の部

(円)

	費 目	予算額	決算額	増 減	備 考
補助金	研究大会運営補助金	50,000	50,000	0	宇都宮大会補助金
	オンライン大会補助	800,000	700,376	-99,624	オンライン開催等
	大会案内等	10,000	194,283	184,283	二次案内、PW 案内等
印刷製本費	学会誌発行	2,000,000	1,833,517	-166,483	美術教育学研究 No. 53（発送 費込み）
	会報発行	200,000	190,872	-9,128	大学美術教育学会会報 No. 39 （発送費込み）
	名簿発行	20,000	17,710	-2,290	
	大会冊子（抄録集・宇 都宮大会記録集）	—	616,000	616,000	オンライン開催のため 学会で負担
運営費	運営委員会・拡大総務 局会	300,000	107,281		旅費
	会場費	0	0	0	会場費
	各種委員会等	200,000	0	200,000	学会誌委員会
	諸会議・打合せ	150,000	0	150,000	
事務経費	通信費	150,000	170,625	20,625	会費請求、論文投稿等
	事務費	100,000	191,293	91,293	
	雑費	10,000	4,420	-5,580	手数料
委託費	事務支局業務委託費	1,320,000	1,320,000	0	会員管理業務
	学会誌編集委託費	800,000	519,750	-280,250	編集業務
	大会受付業務委託費	500,000	275,000	-225,000	宇都宮大会
	HP 管理費	60,000	60,000	0	
予備費	予備費	6,616,020	0	6,616,020	
	合 計	13,286,020	6,251,127	-7,034,893	

◆収入の部－支出の部＝6,244,741（次年度へ繰越）

令和3(2021)年度 大学美術教育学会 予算案

■収入の部

(円)

	費 目	前年度決算額	予算額	増 減	備 考
年会費	会費	4,883,848	5,812,000	728,000	8,000円×726名 (令和3年度会員)
	未納分	408,000	0	-552,000	4,000円×1機関
掲載負担金	学会誌掲載負担金	1,230,000	1,500,000	30,000	30,000×50件
繰越金	繰越金	5,974,020	6,244,741	1,904,325	
	合 計	12,495,868	13,556,741	2,110,325	

■支出の部

(円)

	費 目	前年度決算額	予算額	増 減	備 考
補助金	研究大会運営補助金	50,000	50,000	0	山形大会補助金
	オンライン大会補助	700,376	1,000,000	299,624	オンライン開催等
	大会案内等	194,283	100,000	-94,283	大会案内
印刷製本費	学会誌発行	1,833,517	2,000,000	166,483	美術教育学研究 No. 54 (発送費込み)
	会報発行	190,872	200,000	9,128	大学美術教育学会会報 No. 40 (発送費込み)
	名簿発行	17,710	20,000	2,290	
	大会冊子(抄録集・山形大会記録集)	616,000	800,000	184,000	オンライン開催のため 学会で負担
運営費	運営委員会・拡大総務局会	107,281	300,000	192,290	旅費
	会場費	0	100,000	100,000	会場費
	各種委員会等	0	200,000	200,000	学会誌委員会
	諸会議・打合せ	0	150,000	150,000	
事務経費	通信費	170,625	200,000	-150,625	会費請求、論文投稿等
	事務費	191,293	200,000	8,707	
	雑費	4,420	10,000	5,580	手数料
委託費	事務支局業務委託費	1,320,000	1,320,000	0	会員管理業務
	学会誌編集委託費	519,750	800,000	280,250	編集業務
	大会受付業務委託費	275,000	0	-275,000	
	HP 管理費	60,000	60,000	0	
予備費	予備費	6,616,020	6,046,741	—	
	合 計	13,286,020	13,556,741	270,721	

令和2(2020) 年度 事業報告

4月6日(月)	「宇都宮大会一次案内」郵送・HP掲載
7月13日(月)	「宇都宮大会二次案内」郵送(取消)
7月26日(日)	第1回運営委員会、第1回総務局会(オンライン会議)
8月5日(水)	学会誌・事前投稿登録締切 大学美術教育学会「宇都宮大会」研究発表申込締切・発表概要原稿提出締切
8月3日(月)	「宇都宮大会案内(WEB開催)」ホームページ開設、メール配信
8月26日(水)	「宇都宮大会WEB開催案内」
9月10日(木)	「投稿論文」締切(消印有効)
9月15日(日)	第2回運営委員会、第2回総務局会(オンライン会議)
9月16日(水)	令和元年度会計監査(新野監事・原口監事)
9月18日(金)	大会前日諸会議：第3回総務局会、第1回大学美術教育学会理事会 「宇都宮大会冊子」pdf版 HP掲載
9月19日(土)～9月20日(日)	第59回大学美術教育学会「宇都宮大会」(WEB開催)：学会開催式(宇都宮大学)、研究発表、講演会、学会総会、学会閉会式、大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-山形大学)
10月10日(土)	「学会会報No.38」発行・郵送・HP掲載
11月30日(月)	宇都宮大会概要集・記録集」郵送 投稿論文の掲載可否の決定(投稿論文の最終提出は可否決定後4週間以内)
(令和3年) 1月29日(金)	投稿論文掲載者による掲載負担金納入(厳守)
3月18日(金)	第3回運営委員会、第3回総務局会
3月21日(日)	造形芸術教育協議会
3月31日(木)	第2回学会理事会(メール会議)
3月31日(水)	「学会誌・第53号」発行・郵送 *上記のほか、運営委員会(メール会議)等を随時開催

令和3(2021) 年度 事業計画

6月13日(日)	第1回運営委員会、第1回総務局会(オンライン会議)
6月23日(水)	「山形大会オンライン開催案内」郵送
6月23日(水)	「学会会報No.39」発行・郵送・HP掲載
7月1日(木)	「山形大会案内(オンライン開催)」ホームページ開設、メール配信
8月5日(木)	学会誌・事前投稿登録締切
8月31日(火)	大学美術教育学会「山形大会」研究発表申込締切・発表概要原稿提出締切
9月9日(木)	「投稿論文」締切(消印有効)
9月17日(金)	令和2年度会計監査(新野監事・原口監事)
9月18日(土)	第2回総務局会(オンライン会議)
9月24日(金)	大会前日諸会議：第3回総務局会、第1回大学美術教育学会理事会
9月25日(土)～9月26日(日)	第60回大学美術教育学会「山形大会」(オンライン開催)：学会開催式(山形大学)、研究発表、講演会、学会総会、学会閉会式、大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-宮崎大学)
11月30日(火)	投稿論文の掲載可否の決定(投稿論文の最終提出は可否決定後4週間以内)
12月7日(火)	「山形大会概要集・記録集」郵送
(令和4年) 1月31日(月)	投稿論文掲載者による掲載負担金納入(厳守)
2月20日(日)	第2回運営委員会、第4回総務局会
2月20日(日)	造形芸術教育協議会
3月31日(木)	第2回学会理事会(オンライン開催、メール会議)
3月31日(木)	「学会誌・第54号」発行・郵送 *上記のほか、運営委員会(メール会議)等を随時開催

令和3（2021）年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会

第60回 大学美術教育学会 山形大会報告

2021年9月24日（金）～26日（日）に、「2021年度日本教育大学協会全国美術部門協議会並びに第60回大学美術教育学会 山形大会」を開催しました。昨年度同様、山形大会は通常の対面形式での開催ではなく、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、オンラインでの開催となりました。役員会議、全国美術部門協議会、口頭発表、ポスター発表、記念シンポジウム、総会に加え、昨年度開催されなかった学生会議を行いました。これらのイベントには7月1日に公開した特設の第60回大学美術教育学会山形大会のホームページを通してアクセスする方式を取りました。また、学会参加にあたっては、昨年度同様に参加費を徴収せず、学会員全員および事前に参加申し込みのあった方にホームページ閲覧のためのパスワードを配信しました。学会当日は大会運営関係者9名および大会配信補助を担当した株式会社デジコンキューブのスタッフ3名が会場の山形県生涯学習センター遊学館に集い、会の進行やライブ配信に務めました。また、概要集の代替として学会終了後に記録集を発刊し、学会員全員に配送しました。

1. 概要

[日程]

○大会前日9月24日（金）午後 役員会議（Zoom 会議）

○大会1日目9月25日（土）

部門開会式、日本教育大学協会全国美術部門主催協議会、学会開会式、総会、大会企画シンポジウム、口頭発表、ポスター発表

○大会2日目9月26日（日）

学生会議、口頭発表、ポスター発表、閉会式

[大会テーマ] メディア・コンテンツと美術教育の未来—with コロナ時代を迎えて—

[会場] 山形県生涯学習センター遊学館

[主催] 日本教育大学協会全国美術部門協議会 / 大学美術教育学会

[運営] 山形大会運営事務局

[発表申込み・事前申込み] ○口頭及びポスター発表の申込（演題登録）7月1日（木）9時～8月31日（火）24時まで

[参加者] ○6月1日付けで学会員726名に向けて大会案内を配信、紙媒体の案内を6月末以降に発送

○学会員以外の参加者（事前申込者）：28名

[学会ホームページ訪問者数]

9月25日（土）：207名、9月26日（日）：130名、8月～11月の総数：2428名

[発表者] 口頭発表26件、ポスター発表13件

2. 大会1日目9月25日（土）

[令和3年度日本教育大学全国美術部門開会式、協議会]

全国美術部門の開会式および協議会をZoomおよびYouTubeによるライブ配信にて行いました。協議会（10:20-12:20）では「教員養成縮小期における国立大学の現状と課題Ⅱ—地域課題と美術科教員養成の未来—」というテーマの下、新関伸也先生（滋賀大学）をコーディネーターとして、塚本悦雄先生（弘前大学教育学部 教授・彫刻）、溝口昭彦先生（岩手大学教育学部 教授・絵画）、虎尾裕先生（宮城教育大学 教授・彫刻）、長瀬達也先生（秋田大学教育文化学部 教授・美術科教育）、降旗孝先生（山形大学地域教育文化学部 教授・美術科教育）、新井浩先生（福島大学人間発達文化学類 教授・彫刻）の6名の先生方から、東北の教育学部や教育系大学における地域課題や教員養成の現状について報告され、全体協議では文科省の動向・大学間連携などについて議論されました。大学の美術教育は先細りするばかりではなく、美術のエッセンスを突き詰めることで広く社会に還元できるという議論もありました。

[第60回大学美術教育学会全国大会開会式]

山形大会の開会式（13:20-）をZoomおよびYouTubeによるライブ配信にて行いました。

[部門・学会の総会]

部門および学会の総会(13:50-)を Zoom および YouTube によるライブ配信にて行い、活動計画案、決算・予算報告などについて審議しました。
[大会企画シンポジウム]

「アニメーション・映像と教育」のテーマの下、西野毅史先生(山形大学地域教育文化学部非常勤講師)をコーディネーターとして、長年、国立総合児童センター「こどもの城」において映像やアニメーションのワークショップを行ってきた映像作家の昼間行雄先生(文化学園大学造形学部 教授)、「光の箱」などの光学原理や映像の基本システムを応用した様々なワークショップを考案し各地で行ってきた美術家の松村泰三先生(東北芸術工科大学芸術学部 准教授)、コマ撮りアプリ「KOMA KOMA」の開発や文化庁の人材育成プログラム「アニメーションブートキャンプ」のディレクターを務められてきたアニメーション作家の布山タルト先生(東京藝術大学大学院映像研究科 教授)の御三方をお招きし、これまで行われてきた活動についてお話しを伺いました。アニメや映像を通じて何ができるのかという問いから、豊かな学びの場が広がっていくこと、アニメーションは我々に元気を与えてくれる(animateする)ものであり、また世界の探求の入り口を提供してくれるものであることを実感できる内容でした。

[口頭発表、ポスター発表]

25、26日の両日に行われた口頭発表、ポスター発表では鑑賞教育、教材開発、材料・素材・用具研究、美術史、美術理論、幼児や障害者の造形教育などに関する発表がありました。これらはホームページ内の個別の発表ページ内でオンデマンド配信されました。また、それぞれのページにはコメント記入欄フォーム送信欄が設置され、これらを通して活発な意見の交換がなされました。

3. 大会2日目9月20日(日)

[学生会議]

第11回全国美術教育学生会議は、教員養成課

程や美術大学、教育系学部・学科で美術教育を学ぶ学生たちを対象に、10:00より11:30までオンライン(Zoom)で開催されました。全体テーマ「美術教育／美術の学びを社会でどのように活かすことができるのか」の下、手塚千尋先生(明治学院大学)をコーディネーターとして、コロナ禍での大学の学びやそこでの気づきをもとにグループディスカッションが行われました。

[閉会式]

山形大会の閉会式(13:20-)を行い、大会後オンデマンド配信しました。

4. 大会運営について

多くの発表者、参加者、本部事務局、企業の方々の支援により、盛会となりましたことに御礼申し上げます。なお山形大会は以下のスタッフにより運営いたしました。

○山形大会運営事務局(山形大学地域教育文化学部文化創生コース内)[大会運営委員長]降旗孝/
[大会運営委員]小林俊介/[大会運営事務局委員]土井敬真

[謝辞]学会総務局長の芳賀正之先生、学会総務局事務の高林未央様、山形大学非常勤講師の西野毅史先生、大会ホームページ作成および大会配信をご担当頂いた株式会社デジコンキューブ様には特段のご支援をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

(大会運営委員 小林俊介 2022.6.3)



図：会場風景；部門協議会の様子

令和4（2022）年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会 第61回 大学美術教育学会 宮崎大会

大会テーマ「次世代型美術教育モデルの構築に向けて」

○企画・運営 宮崎大会実行委員会

○主 催 日本教育大学協会全国美術部門 大学美術教育学会

1. 宮崎大会の概要

令和4（2022）年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会／第61回 大学美術教育学会 宮崎大会は、美術部門協議会や総会等は現地開催によるライブ配信、研究発表等はオンデマンド配信（一部ライブ配信）としたハイブリッド型の「オンラインによる大会」として開催します。

オンライン開催（宮崎大学教育学部）

令和4年9月17日（土）・18日（日）

宮崎大会専用ページ <https://www.miyazaki2022.com/>

ライブ配信 (Zoom)・・・木花キャンパス／美術部門協議会・企画等、ライブ研究発表
オンデマンド配信・・・研究発表

2. 参加方法

■参加費について

今年度の大会もオンラインによる大会での実施となったことから、参加費は徴収しません。

■参加方法について

研究発表を視聴される際には、後日発行される大会案内に記載のパスワードを入力してください。

3. 発表申込

■申し込み方法について

- ・大会専用ページより申し込みください。研究発表では口頭発表とポスターの展示の両方の申込みはできません。
- ・全員オンデマンド配信です。その中から申込み順に、希望者のみライブ発表の枠を設けます。

■申込日時

7月1日（金）9：00 ～ 8月31日（水）発表概要締切 8月31日（水）

4. 日程・内容

■9月16日（金）：大会前日の諸会議

■9月17日（土）：協議会・総会・シンポジウム・研究発表（オンデマンド発表）

■9月18日（日）：研究発表（ライブ発表・オンデマンド発表）・学生会議

詳しくは大会専用ページ <https://www.miyazaki2022.com/> または
大会案内を御覧ください。

お知らせ

会員情報（メールアドレス）の更新のお願い

経費削減ときめ細やかな会員サービスの実現のために、部門からの連絡の一部を可能な限り電子メールに移行させていただいております。会員の皆様には電子メールアドレスに変更等がございましたら、随時、e-naf システムより会員登録情報の更新をお願い致します。

<更新方法>

- ①大学美術教育学会会員情報管理システム（e-naf）ログイン画面を開く
<https://e-naf.jp/UAESJ/member/login.php>
- ②「ログイン ID（会員番号）」と「パスワード」を入力（ID は封筒の宛名の右下に記載があります。今後とも必要となりますので必ずご自身で控えておいてください。パスワードを紛失した場合は、ログイン画面より再発行が可能です。）
- ③会員登録情報をクリック
- ④画面一番下の「修正」をクリック
- ⑤修正したら、確認画面→登録へと進む。
- ⑥登録変更のご連絡（自動配信メール）が届いたら変更完了

年会費の支払いに関するお願い

大学美術教育学会は、皆様の年会費により運営されています。年会費の支払いにご協力ください。

滞納されている方は、早めに納入してください。なお、払込取扱票の再発行はいたしかねます。未納額が不明な場合には、会員様ご自身で e-naf より会費納入状況をご確認いただけます（メールによるお問い合わせにも、従来通り対応致します）。また、領収書は払込の控えをもって代替させていただきますので、ご了承ください。

■振込先

口座番号：00980-6-203000
加入者名：大学美術教育学会

学会員の名簿について

大学美術教育学会の会員名簿については、パスワード付 PDF をホームページの会員情報に掲載しております。下記の方法で PDF をダウンロードし、別紙に記してありますパスワードを入力してご確認ください。なお、e-naf のパスワードとは異なりますのでご注意ください。

<会員名簿（PDF ファイル）のダウンロード>

- ①日本教育大学協会全国美術部門・大学美術学会のホームページを開く（<https://www.uaesj.com/>）
- ②次の順でメニュー等をクリックする。
「大学美術教育学会」→「会員情報」→「大学美術教育学会 会員情報名簿」
- ③ダウンロードしたら、パスワードを入力

問合せ先について

大学美術教育学会では、平成 26 年度以降、業務の一部をアウトソーシング（中西印刷株式会社に業務委託）しております。つきましては、会員管理・会費に関するお問い合わせは、大学美術教育学会事務支局（中西印刷内）へ、その他については、総務局へお問い合わせください。

<会員管理・会費関連に関するお問い合わせ>

大学美術教育学会事務支局
（中西印刷株式会社内）
Tel:075-415-3661
e-mail:uaesj@nacos.com

<総務局へのお問い合わせ>

総務局専用電子メールアドレス
e-mail:daibibumon@uaesj.com

【総務局広報担当】

村田 透（滋賀大学）
福井一真（愛媛大学）
松尾大介（上越教育大学）
吉川暢子（香川大学）
高林未央（総務局事務員）



